

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和4年	会計コード	10	一般	事業コード	38813	
事業名	文化芸術鑑賞促進費						
評価担当課	所属名	市)文化部 文化振興課					
	課長名	浜部	担当者名	加納・河野	電話番号	011-211-2261	
施策名	主	誰もが文化芸術に親しみ、創作や表現ができる環境が整い、多様な					
	副						
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	コロナ禍により減少した文化芸術鑑賞機会を回復し、更に新たな層を取り込むことによる鑑賞者拡大を目指す。【アクションプラン2023事業目標】クラシック音楽を普段鑑賞しない人が、また鑑賞したいと回答した割合(令和9年度)50%				
		長期	文化芸術鑑賞者の裾野を拡大することで、幅広い世代の文化芸術活動への参加割合を上昇させる。				
	取組内容	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民が文化芸術に触れる機会が減少したことから、その機会の回復、更には新たな層を取り込むことによる鑑賞者拡大を目指し、地元交響楽団による低料金のコンサート開催や美術館の観覧料補助を行い、質の高い文化芸術の鑑賞機会を提供する。					
	実施結果	①低料金コンサート 札幌交響楽団のコンサートを4公演実施し、955人が来場した(シニア向け1公演で1,796人、親子向け2公演で1,265人、若年層向け1公演で1,894人)。 ②美術館観覧料補助 札幌芸術の森及び本郷新記念札幌彫刻美術館で開催される企画展の観覧料を半額とするとともに、芸術の森野外美術館と本郷新記念札幌彫刻美術館記念館の入館料を無料とした(6企画展合計で52,573人、期間中の芸術の森野外美術館は45,977人、彫刻美術館記念館は2,205人の来場があった。)					
事業実施における工夫点	特になし						
対象者	公演来場者、美術館来館者			開始	令和4年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	札幌市文化芸術基本条例						
他都市の状況	マイタウンオーケストラ広響2023マエストロ・シモーノといっしょに「ミート・ザ・広響」						

◎事業費

(単位:千円)

	令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
事業費	0	99,000	58,323	21,000
うち特定財源	0	0	58,323	0
人工	0.0	0.3	0.3	0.3
人件費	0	2,160	2,160	0
計(事業費+人件費)	0	101,160	60,483	21,000
事業費	令和4年度決算	①低料金コンサート 20,053千円 ②美術館観覧料補助 38,270千円		
の内訳	令和5年度予算	①低料金コンサート 21,000千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名						
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定			
活動指標2	指標名						
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定			
成果指標1	指標名	コンサート来場者数					
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標			
	-	4,700人	4,955人	4,400人			
成果指標2	指標名	美術館来館者数					
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標			
	-	114,000人	101,617人	-			
項目	判定	理由					
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	低料金コンサートや美術館観覧料補助の実施により、普段からクラシックや美術鑑賞に馴染みのある方はもちろん、馴染みの無い層への鑑賞の動機付けにつながり、市民に心のゆとりや潤いをもたらすとともに、Kitaraやhitaru、芸術の森等の利用者の裾野を広げる一助となった。低料金コンサートについては満席となった公演もあり、また、美術館来館者数については当初の見込みを下回ったものの札幌芸術の森野外美術館の来館者数は前年度と比較して3.1倍となる等、多くの市民の来場があった。					
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	低料金コンサートは新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み4公演実施したが、普段クラシック音楽を鑑賞しない層がより親しみやすいように1つ1つの公演内容を充実させることで、実施回数を絞り費用対効果を高められると考えられる。					
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	低料金コンサートは北海道唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団との共催で実施することで、質が高く迫力のある演奏を低料金で鑑賞する機会を提供することができた。また、観覧料補助については芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館の指定管理者への負担金支出により、入場券販売料金自体を減額し、全利用者に対して手間をかけさせることなく補助を実施できた。					
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	低料金コンサートについては「ぜひまたこのような機会をもうけてほしい」との声が多くあり、また、美術館観覧料補助についても「半額で鑑賞できて良かった」との感想が寄せられており、満足度は高かったことがうかがえる。					
市民参加の実施	☐ 企画 ☐ 実施 ☐ 評価 ☒ 対象外		市民参加結果への対応	☐ 回答 ☐ 反映			
今後の改善点	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により失われた鑑賞機会を回復させることを大きな目的としていたが、令和5年度以降は、本事業をきっかけとして他のクラシックコンサートの鑑賞につながるよう、曲目などプログラム全般を一層工夫するとともに、来場者アンケートを行って改善すべき点を把握し、より効果的な内容としていく。						
前回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ● 評価省略対象事業・前年度実施なし						
今年度取り組んだ見直し内容	令和5年度は美術館観覧料補助は行わず、低料金コンサートの方に絞り、さらに低料金コンサートは鑑賞者の裾野拡大のコンセプトを明確にし、4公演から3公演に変更した。		見直し効果額 (前年度)	78,000	千円		
今回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし						
評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により文化芸術鑑賞の機会が減少した市民に対し、質の高い文化芸術の鑑賞機会を提供し、鑑賞者の拡大につなげることができた。						
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	☐ 改善 ● 現状維持 ☐ 休止・廃止					
		依然としてクラシック音楽鑑賞者は高齢者層が多い傾向にあるため、引き続き低料金で気軽に楽しめるコンサートを実施し、子どもや若年層など普段クラシックを聴かない層を中心に鑑賞者を増やし、幅広い世代の市民が文化芸術を楽しむ機会を充実させる必要がある。					
	予算	☐ 拡充 ● 現状維持 ☐ 縮小 ☐ その他					
		令和4年度の入場者数を鑑み、需要があると判断されることから、公演回数は3公演を維持する。		見直し効果額	0 千円		